

「終わりよければ」いせの会 会報54

平成25年5月7日版

電話 0596・63・5226
ファクス 0596・63・5236

3月22日定例懇談会の報告

5名参加。会として8月24日の市民公開講座を開催することを決定。

「認知症があっても、在宅で最期まで過ごすことは可能」というメッセージを地域に伝える。

会場を、ハートプラザみそのに決定。

田辺さんと直接連絡をとり、詳細を決める。チラシを確定して、後援名義を求める資料とする。後援団体へ、市民への周知を依頼。

エンディングノートの活動は、希望のある団体へ講師として出張する。11月に松阪市の幸公民館から依頼されている地域包括支援センターや保健師の活動と、リンクを考える。

4月17日定例懇談会の報告

参加5名。チラシの内容を確定する。
6月に社会福祉協議会の助成事業に応募。
市民からの協賛金があり、活動費用に充当。

次回は5月8日、8月までの活動の流れを考える。その後の基本活動も考える。

認知症の本人と家族を取り巻く伊勢市の現状を詳しく知る。そのために必要な手立ても考える。

←ご連絡が間際になり、申し訳ありません。

「終わりよければ」いせの会の次回定例会
5月8日（水）19時から。 縁の家

以下は、現時点でのチラシ案ですよ

「終わりよければ」いせの会

認知症・市民公開講座

介護講談（認知症介護のコツ）

「ほっとけ心のアップレ介護」

講師 たなへ かへい

田辺 鶴瑛さん



笑いながら介護ができるのって、
素敵なことだと思いませんか？

「年をとっても、自分の住んでいる地域で安心して暮らしたい」と、思われる方が多いと思います。
家族を介護すること、少し考えてみませんか？
大変だけど、独自の工夫で介護に対する気持ちが大きく変わることもある・・・

最期まで在宅も可能になる、そんなヒントが見つかるかもしれません

日時 平成25年8月24日（土）13時受付
13時半～15時半
場所 ハートプラザみその ホール

事前申込不要

参加費 無料

後援（予定） 伊勢市・伊勢地区医師会

- ・伊勢薬剤師会・伊勢市社会福祉協議会
- ・三重県介護支援専門員協会南勢志摩支部
- ・みえ生を死を考える市民の会

講師の略歴

昭和30年11月22日、北海道函館市生まれ。
地元小中学校卒業、札幌藤女子短大別科卒業。19歳のとき、母が脳動脈瘤で倒れ入院、植物人間となる。4年間の介護の後、23歳のとき母が死亡。
母の死後、心の空白を埋めるためインド・インドネシア・沖縄に旅立つ。帰国後、陶芸家、彫刻家助手、女優を目指すも、成就せず断念。夫と出会い結婚、出産、子育ての後、義母が倒れ3年間の介護。
義母の死後、平成2年9月、夢の中に田辺一鶴が現れる。一ヶ月後、新聞に田辺一鶴の「講談修羅場道場開講」の記事、「これだ！」と心を揺さぶられ飛んで行く。平成17年認知症の義父を在宅介護、平成23年に在宅で看取る。

平成 2年11月 講談師田辺一鶴に入門 「あか美」
平成 7年 4月 二つ目昇進「鶴瑛」
平成15年 9月 講談協会、真打昇進
平成18年 7月 ニューヨーク公演
平成18年11月 ハンガリー公演
平成19年 在宅介護ビデオ「ほっとけ心のアップレ介護」制作
平成20年10月 改名して「鶴瑛」
平成23年12月、爺ちゃん在宅介護 看取り終えました。爺ちゃんは91歳で12月21日 冥途へ旅立っていきました。